

【添付資料】出演者プロフィール

KIRINJI



堀込高樹によるソロプロジェクト。

1996年に堀込高樹・泰行兄弟で「キリンジ」を結成し、2013年に堀込泰行が脱退後、新メンバーを迎えたバンド体制「KIRINJI」を経て、2021年より現在のソロプロジェクト体制で活動中。

様々なアーティストへの楽曲提供、ドラマ・映画の劇伴や番組のテーマソング制作、ラジオDJなど活動は多岐にわたる。

2025年は、1月に LIVE Blu-ray『KIRINJI 25th ANNIVERSARY LIVE』を、3月に配信シングル「歌とギター」をリリース。7月に開催したビルボードライブツアーは全8公演が完売し、「FUJI ROCK FESTIVAL '25」への初出演、11月には上海・広州でのワンマンライブや韓国フェスへの出演など、国内外で精力的な活動を展開。

2026年は、1月9日にオリジナルアルバム『TOWN BEAT』をリリース。1月12日から福岡・愛知・大阪・東京を巡るバンド編成でのライブツアーを開催、NHKホールを含む全公演がソールドアウト。3月に開催の韓国での初のワンマンライブも発売後すぐにソールドアウトを記録するなど、進化し続けるサウンドと独自の詞世界で、世代や国境を越えて幅広い支持を集め続けている。

公式サイト：<https://www.kirinji-official.com/>

齋藤友香理（指揮）



桐朋学園大学ピアノ科卒業後、指揮を黒岩英臣、高関健、梅田俊明の各氏に師事。小澤征爾氏により指揮研修生に選ばれ、2010年にサイトウ・キネン・フェスティバル松本の青少年オペラ《ヘンゼルとグレーテル》でオペラデビュー。

2013年からドレスデンでG.C.ザンドマン教授に師事。2015年、ブザンソン国際指揮者コンクールで聴衆賞とオーケストラ賞を同時受賞。その後はリール国立管を指揮し欧州デビューし、ウィーンのトーンキュンストラー管も指揮。2018年にはバイエルン州立歌劇場のワーグナー《パルジファル》で、音楽監督K.ペトレンコのアシスタントを務めた。

国内では読売日響、東京響、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、東京シティ・フィル、山響、群馬響、京響、大阪フィル、日本センチュリー響、大阪響、名古屋フィル、兵庫県立芸術文化センター管、九州響を指揮。

公式サイト：<https://www.kajimotomusic.com/artists-projects/yukari-saito/>

東京フィルハーモニー交響楽団



とフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を、刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的・創造的な文化交流を行っている。©Takafumi Ueno

公式サイト：<https://www.tpo.or.jp/>

山下康介（編曲）



東京音楽大学作曲専攻「映画・放送音楽コース」（現ミュージック・メディアコース）卒業。

映画「花筐／HANAGATAMI」「この空の花」などで知られる大林宣彦監督作品に多く携わったほか、NHK 連続テレビ小説「瞳」やドラマ「花より男子」、アニメ「ちはやふる」「ドラゴンボール DAIMA」、「仮面ライダーセイバー」、スーパー戦隊シリーズ「暴太郎戦隊ドンブラザーズ」、歴史シミュレーションゲーム「信長の野望」シリーズなどの音楽がある。

また編曲家として「題名のない音楽会」などの放送用編曲をはじめ、billboard classics などオーケストラのためのコンサート用編曲を多数手がけている。現在、洗足学園音楽大学教授、東京音楽大学特任教授。一般社団法人日本作編曲家協会

(JCAA) 理事。静岡いわた PR 大使。©Tatsuya Ito

萩森英明（編曲）



東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。

作曲作品はこれまでに群馬響、東京響、新日本フィル、東京シティ・フィル、セントラル愛知響、京都フィル、関西フィル、琉球響、ハワイ響、ルーマニア国立放送響などによって演奏されている。特に琉球交響楽団のために書き下ろした《沖縄交響歳時記》は『レコード芸術』誌特選盤に選出された。

編曲家としては、玉置浩二、八神純子、石丸幹二、石井竜也、藤井フミヤ、浜田麻里、渡辺美里などのアーティストのオーケストラコンサートの編曲、「『陳情令』オーケストラコンサート」「ご注文はオーケストラですか？」などのコンサートの音楽監督、「題名のない音楽会」「おんがく交差点」「紅白歌合戦」等のTV番組の編曲など、活動は多岐にわたる。

洗足学園音楽大学非常勤講師。日本作編曲家協会会員。